

## 解答

## 一

- 問一 動物の「命」を感じてもらうため  
目  
問二 ③ (オ) ④ (カ) ⑥ (イ)  
問三 1 知識 2 実感  
問四 子どもたちは  
問五 (ア)  
問六 「命」といゝという事実  
問七 それは、と  
問八 かけがえのゝということ  
問九 決して動物ゝたくはない(という思い)。  
問十 愛情  
問十一 動物が死んだことを、手書きのポップで知らせる活動  
問十二 くぎ  
問十三 「若い」は人間も動物もたどる道であり、動物のケガは人間が関わっていることが多いという、野生動物が置かれた状況を知らせる必要があるという考え。  
問十四 淡々と  
問十五 (ウ)  
問十六 アサコが死ぬこと。  
問十七 「有り  
問十八 自分の辛さや苦しさを伝えること。  
問十九 (イ)  
問二十 動物の「死  
問二十一

## 二

- ① (イ) ② (カ) ③ (オ) ④ (ク) ⑤ (エ)

## 三

- ① (モ) ② (エ) ③ (ア) ④ (ク) ⑤ (オ)

## 四

- ① 警備 ② 製造 ③ 確定 ④ 裁断 ⑤ 評価 ⑥ 応接  
⑦ 税率 ⑧ きぬおりもの ⑨ あやま〔る〕 ⑩ す〔り〕

## 解説

## 一

- 問十四 次の段落で、「(若いは) 人間を含めすべての動物が等しくたどる道だし、動物の交通事故は人間が起こして」おり、「北海道の動物たちは、人間が与える悪影響の『生き証人』であると述べられています。こうした「野生動物が置かれた状況を知らせる」ため、老いたりケガをしたりした動物の展示が必要だと筆者は主張しています。